

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
白書分科会（第5回）ビジョン作業班（第7回）／技術作業班（第6回）
議事要旨

1. 日 時： 令和3年8月24日（火）15:00～19:15
2. 場 所： ウェブ会議（WebEx）
3. 出席者：
中村主査（NTT ドコモ）、
ビジョン作業班 小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、
技術作業班 中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、
WP5D 対応 Ad hoc 菅田主査（KDDI）、武次副主査（NEC）、
ほか、通信事業者、メーカ等、計 62 名
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室
井出室長、江原課長補佐、守屋係長、杉山官

4. 議事要旨

冒頭、会議開催に先立ち、中村主査から挨拶があった。

（1）前回会合（第4回）の議事要旨について

事務局から、資料1 ビジョン作業班第4回議事要旨、第5回議事要旨について説明。
修正があれば、8月27日（金）までに事務局へ連絡してほしい旨説明。

（2）WP5D 対応 Ad hoc について

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査から 10 月の WP5D 第 39 回会合に向けた寄与文書の検討について説明。質疑応答は以下のとおり。

ソフトバンク福本氏：資料は WP5D 対応 Ad hoc メンバーに共有されているか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：希望があったメンバーには共有した。

中村主査：希望があれば事務局へ連絡してほしい。

小西リーダー：全体のスケジュールは菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査から報告があったが、
次回の会合に向けて方向性は決まっているのか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：まだ流動的である。中国及び韓国のビジョンの構成案は
決まっているため、内容を大きく変えることは難しい。追加することは問題ない。

小西リーダー：現状案を大きく変えることは難しいか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：然り。

NICT 中川氏：白書の5章技術分野に記載する際は、菅田氏のものに追記すれば良いか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：自身で作成したもので良い。改めて寄与文書に追記することは考えていない。

エリクソン本多氏：今回まとめたものは Future Technology Trend のレポートにそのまま掲載するものではなく、説明用ということによろしいか。それとも、Future Technology Trend として入力し、寄与文書に入力するという理解によろしいか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：緑のマーク分については次回寄与文書に盛り込む予定。入力提案を大切にしたい。緑の部分について、オレンジの数字は既にセクション番号として決まっているもの。数字がないものは未定。当然、テキストもない。

(3) ビジョン作業班（第7回）について

小西リーダーから資料3白書の目次と今後の進め方について説明。たたき台を作成した場合は、エディターズ会議で確認する。質疑応答は以下のとおり。

小西リーダー：白書の執筆状況について、テレコムサービス協会さんから説明を希望する旨事前に連絡があったが、この場で御説明していただくこともできるが、いかがか。

テレサ協竹上氏：まずは叩き台を作成したところ。本日18時からのエディターズ会議で、御説明させていただければと考えている。

小西リーダー：承知した。ほかに18時以降のエディターズ会議で説明したい方はいるか。

三菱電機小崎氏：状況の報告を希望する。

ソフトバンク横田氏：我々も状況報告させていただきたい。

永田サブリーダー：エディターズ会議では、テレコムサービス協会様、三菱電機様、ソフトバンク様の3者が説明希望と認識している。

小西リーダー：では、本日のエディターズ会議では3者から御説明いただき、議論できればと思う。

(4) 技術作業班（第6回）について

中村リーダーから、資料4について説明。目次案について分科会のメーリングリストで審議。期限は8月31日（火）まで。質疑応答は以下のとおり。

ドコモ須山氏：白書の執筆を始めると、書き方に迷いが生じるため、方向性をまとめてもらい助かった。今後も適宜相談したい。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：メッセージ一言のみだと抽象的であるため、もう少し詳細を定めた方が良いと思った。

中村リーダー：読者に伝えるメッセージは、①～④全てを満たす必要はなく、該当するもののみ適用してもらえば良い。

華為日本朱氏：目次の担当割については調整可能か。また、審議はメールで行われるか。
中村リーダー：調整可能である。審議はメールの予定である。31日（火）までに取りまとめをお願いする者へ個別に相談する予定である。

ノキア小野沢氏：どこかの章を執筆したい場合は、31日（火）までにメーリングリストで相談すればよいか。編集は取りまとめ担当者が中心に行うのか。

中村リーダー：然り。内容によっては個別に相談させてもらう。修正方法は、1者がとりまとめ、各者から意見をもらう。分量が多い章は、細分化してお願いする。

華為日本朱氏：担当する団体によっては対応できる者が限られており、日程的に執筆が厳しいため、日程の相談をしたい。特に10月末の0.4版はスケジュールがタイトである。

中村リーダー：ビジョン作業班と相談して調整する。ビジョン作業班で出た意見で、すぐに執筆できる技術を先行していきたい。また、0.4版は文章でなくてもテーマのポイントを押さえるだけでも良い。

華為日本朱氏：メッセージ案の③は、技術の内容によっては執筆できないものもあると思うが、必ずしもこのとおりに書かなくてもよいか。

中村リーダー：然り。あくまで参考である。

(5) 白書執筆要綱及び共有ファイルサーバの運用について

ARIB 加藤氏から資料5 B5G White Paper 執筆要綱及び白書分科会用ファイルサーバの運用についてについて説明した。質疑応答は以下のとおり。

テレサ協竹上氏：本日の資料を word ファイルでもらえるか。

事務局：承知した。

ARIB 加藤氏：Share point でも共有予定する。

小西リーダー：新たに会議を設定した場合、エディターには自動的に案内の連絡がいくのか。

ARIB 加藤氏：案内は自動的にはいかない。メーリングリストで決めていただいた情報を掲載するのには活用できる。

中村主査：基本的にはリーダーが取りまとめて連絡すること。

(6) 今後のスケジュールについて

中村主査から資料6 今後のスケジュールについて説明。次回白書分科会は9月28日（火）15:00から開催予定

(7) その他について

中村主査から白書を発表する機会について相談。

事務局：白書は総会、企画委員会に上程予定。総会は年度末に開催見込みである。

中村主査：日程を早めに決めてほしい。それを目標に作成できる。また、周波数の検討をすべきである。どこまで議論するか考える必要がある。他業界に影響を与えすぎないようにすべきである。まずはリーダー陣で考えたい。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：広帯域な周波数や 2030 年に向けてのアプリケーションについて条件が出るのであれば議論すべき。既存の周波数で実現できないなど技術的条件に関わることは白書に記載すべき。

中村主査：白書執筆時に議論すべき内容がある場合は、適宜相談してほしい。ある程度の検討は前もって開始すべき。

武次 WP5D 対応 Ad hoc 副主査：テラヘルツ、光通信など可能性があるものは掲載してもよいのではないかと。

ARIB 加藤氏：WRC-27 の議題になる可能性はある。それが決まるのは、2023 年頃のため、日本としてアクションするのであれば、APG28 で新議題として提案することになる。

中村主査：第 1 版では、詳細を書くことはできないが、第 2 版以降に書くことになるか。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：白書執筆時に使用周波数の記載を必須にしてはどうか。

中村主査：記載できるに越したことはないが、あまりとらわれすぎないようにしてほしい。

中村リーダー：周波数を限定するのは難しいため、ビームフォーミング化や広帯域化などの記載までにしてはどうか。既に使用している場合は記載する。

エリクソン本多氏：必要な周波数を決めるのは良いが、どういうアプリケーションがあるか、KPI としての議論ができていないので現時点では難しい。

中村主査：可能な範囲で周波数の記載はしてほしい。

菅田 WP5D 対応 Ad hoc 主査：5 G と Beyond 5G の切り分けはあるのか。技術テーマを見ていると切り分けができていないように見えるが、分けた方が良い。

中村主査：4 G、5 G の時もそうだったが、それぞれの定義は難しい。5 G、Beyond 5G のそれぞれの定義も難しい。

以上